

超能力の秘密 1971年 たま出版

ジナ・サーミナラ

ウィスコンシン大学卒、哲学博士、ケイシー財団編集者

エドガー・ケイシーのリーディング分析報告書。(輪廻転生をテーマにしたもの)

異状な状況において人間の魂が動物の体に逆もどりすることが可能であるかどうかという問題では、人間の魂は生まれ変わりをつづけでゆくうちにだんだん墮落(悪化)することがありうるにしても、もう一度動物界に後退するほど低いレベルに落ち込むことはない。

転生の根本原理はヒンドゥー語の「カルマ」という単語にすべてふくまれている。「カルマ」とは文字通りでは「行為、行動、作用」という意味ですが、道徳に関する使い方では作用と反作用、原因と結果(因果)ということである。キリスト教の言葉では、「播いたとおりに刈り取り、他人に為したことは、そのまま己の身に帰る。」という有名な言葉がカルマを説明している。

根本思想

次にかかげる命題は人間の運命を理解し転生心理学の体系をつくり上げるための根本になる主張を見ることができる。

1. カルマを単に否定的なものと見なしてはならない。カルマには連續性と応報性という二つの面がある。
2. 連續性という面から見ると宇宙的な理法、法則に反しない行動はその効果が継続する傾向にある。努力は決して無駄にはならない。
3. ある生涯でつちかった能力や才能は、その後引きつづいておこる生涯にも存続する傾向を有する。しかしほかにカルマ上の人生状況がはたらくと、それによってこのような才能の発現が抑制されることもまま起こりうる。
4. 性格の特徴、興味、態度なども生まれ変わるたびごとに持ちこされる傾向がある。内向性や外向性による基本性格も、カルマ上の新しい要因が入ったり、バランスへの努力をしない限り、やはり継続する傾向をもっている。
5. カルマの応報(因縁に応じて吉凶禍福の報いを受けること。)についてマイナスの作用を説明すれば他の生命単位(個人や団体、動物までを含めて)の幸福に害を及ぼすいわゆる「悪業」は、与えた害の程度と性質に応じて正確な「処罰」を受ける。
6. 応報は次の種類がある。
 - (a) ブーメラング的応報…過去生で他人を盲にした人は、今生で自分自身が盲目になる。
 - (b) 生体的応報…ある生で暴飲暴食した人は、次の生で消化器官の故障に悩むことがある。

(c) 象徴的応報…過去生で他人が助力を懇願したときに「耳をかなさなかつた」人は、今生で文字通り「耳の聞こえぬ」状態になる。

7. 応報カルマは肉体面でも心理面でも作用する。
8. 他人をあざけったり、非難したりすれば、その報いは心理と肉体の両面に出てくる。つまり他人を嗤弄したり、非難したその理由や対象そのものを自分の身に受けて苦しむ。
9. 過去生で配偶者に不実をはたらけば今生で自分の妻(夫)から同じ不貞の憂き目に合う。
- 10.ひどい孤独や孤立は前生で自殺をした報いである。
- 11.カルマの発芽は、ときとして何回もの生まれ変わりのあいだ抑えられることがある。(一種の執行猶予)
- 12.カルマの執行猶予は3つの根本的理由による。
 - (a) カルマの負債を弁済するためには、その時代の文化的要因がなければならぬ。
 - (b) 人間の本体(魂)は、自分のカルマをさばくのに足りる充分な内面能力を開発する必要がある。
 - (c) 人間の本体(魂)がカルマの「借り」を支払うためには、他の人間の本体(魂)と適当な結びつきが成り立つことが必要な場合があるので、弁済の相手もまたこの世に生を受ける時まで待たなければならない。
- 13.心理上の異常性質の原因を過去生の経験につきとめることができる場合がある。
- 14.どんな人の魂も自由意志をもっている。この意志を利己的な目的に、あるいは過度の官能的満足のために悪用、誤用した場合にのみ、生命のカルマ法則がはたらいて自由意志は抑制される。
- 15.ある魂が生まれ変わってカルマの宿題を果たそうとする場合、自分にとって必要な遺伝形質をそなえた肉体と生活環境とを与えてくれる両親に引きつけられる。このような磁石的引力によって受胎と出生がおこる。
- 16.無意識のなかには人間の本体(魂)が過去のすべての生において経験したあらゆる人生内容の記録または埋もれた記憶がふくまれている。

肉体

肉体の病気、不具、奇形、美醜等はすべてカルマ的である。

人間が肉体によって犯した罪に出会い、その償いをする場所が肉体である。また肉体は心が客体化したものであるから心の罪に直面し、その償いをする場所も究極的にはやはり肉体であるということになる。しかし、試験場であるというのではまだ足りない。肉体は開発場、体育館みたいなものというべきである。ここで魂は自らの精神的筋肉を開発するチャンスを与えられる。基礎的な試験や開発がすむと、今度はいよいよ集会場としての肉体の働きが始まる。

この場で人は神に会い淨められた全体に上から力がそそがれる。そして人間は最終的に自分が「自由になった」と感じる。

セックス(性別)

私たちがほとんど毎日の新聞記事で信じられぬほど残酷な性犯罪ニュースに接するのも、それほど不思議ではない。こういう犯罪の被害者は自分自身が過去生で他人に与える残虐行為の当然の結果として、このような目に合っている。また加害者のほうはまた野獣的な意識レベルにとどまっており、他人の運命を成就する役割を受け、同時に自分自身の運命をも展開している。

また、積極性と消極性は全宇宙と神の両面であって、おぎない合う関係にある。神のごとなり、宇宙的な心をやしなうには私たちは積極性(陽性)になるのと同時に消極性(陰性)にならなければならない。言い換えれば男女の両性を完全に合わせ持たなければならない。したがって性の交代という事実によって、男女間の性的区別の絶対性が消失することになる。

人種

人種もカルマ的に作用する。過去性で白人であり、黒人をいためつけたとすれば今生は黒人に生まれるということである。

バランス

バランスを平衡状態という意味にとらえるならば過度の依存心と過度の独立心とのあいだにバランスが必要である。事実バランスは、あらゆる両極対立の性質(冷暖、貴厳、高低、尊卑など)に必要である。

また人間には魂、心、体の3つがあり、これらが全てバランスよく成長する必要がある。